



2026年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2025年8月12日

上場会社名 株式会社ヒガシマル 上場取引所 福
コード番号 2058 URL <https://www.k-higashimaru.co.jp/>
代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 東 勤
問合せ先責任者 (役職名) 専務取締役管理部部长 (氏名) 松久保 稔 (TEL) 099-273-3859
配当支払開始予定日 —
決算補足説明資料作成の有無 : 無
決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2026年3月期第1四半期の連結業績(2025年4月1日～2025年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2026年3月期第1四半期	3,052	△11.7	1	△88.2	3	△92.8	△37	—
2025年3月期第1四半期	3,455	18.2	16	—	54	—	101	—

(注) 包括利益 2026年3月期第1四半期 △36百万円(—%) 2025年3月期第1四半期 71百万円(392.5%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2026年3月期第1四半期	△9.51	—
2025年3月期第1四半期	25.73	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2026年3月期第1四半期	13,908	5,038	36.2
2025年3月期	14,226	5,134	36.1

(参考) 自己資本 2026年3月期第1四半期 5,038百万円 2025年3月期 5,134百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2025年3月期	—	0.00	—	12.00	12.00
2026年3月期	—				
2026年3月期(予想)		0.00	—	12.00	12.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2026年3月期の連結業績予想(2025年4月1日～2026年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	6,585	△10.2	127	△25.0	124	△41.5	70	△55.5	17.77
通期	14,271	1.0	390	166.7	368	29.3	199	147.3	50.54

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更 : 有
新規 一社(社名) 、除外 1社(社名) マリンテック株式会社
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2026年3月期1Q	4,746,000株	2025年3月期	4,746,000株
② 期末自己株式数	2026年3月期1Q	790,843株	2025年3月期	790,843株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	2026年3月期1Q	3,955,157株	2025年3月期1Q	3,946,177株

- ※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー : 無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

- ・本資料に記載されている業績予想につきましては、現時点で入手可能な情報に基づき判断したものであり、実際の業績は今後の様々な要因により予想数値と異なる可能性があります。なお、上記予想に関する事項は、四半期決算短信[添付資料]3ページ、「(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	6
第1四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	7
第1四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(連結の範囲の変更に関する注記)	8
(セグメント情報等の注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当期の連結業績の概況

当第1四半期連結累計期間におけるわが国の経済は、企業による自動化・デジタル化設備への投資の増加、賃上げの継続や旅行・レジャー支出の回復、インバウンド需要の増加などを背景に、内需は緩やかな回復基調にありました。一方で、米中経済の減速や米国による追加関税措置に起因する世界的な貿易摩擦の激化により外需は低迷しており、原材料価格や生産・輸送コストの高騰につながる要因が顕在化しています。その結果、食料品や生活必需品の価格上昇が継続しており、依然として先行きは不透明感な状況にあります。

このような環境の下、当社グループは、主要原材料、燃料費、輸送費及び資材費などのコスト高騰の影響がますます深刻化し、他社との販売競争も激しさを増す事業環境にあり、工場の生産効率の改善や販売戦略の見直し、販売価格の改定などによる業績向上に取り組んでまいりました。

また、当第1四半期連結累計期間においてマリンテック株式会社の株式の一部を譲渡し、特別利益として関係会社株式売却益2億10百万円を計上いたしました。

その結果、当第1四半期連結累計期間の業績は売上高30億52百万円（前年同四半期比11.7%減）、営業利益1百万円（前年同四半期比88.2%減）、経常利益3百万円（前年同四半期比92.8%減）、親会社株主に帰属する四半期純損失37百万円（前年同四半期は親会社株主に帰属する四半期純利益1億1百万円）となりました。

①水産事業

水産事業におきましては、インバウンド需要の増加傾向により外食及び業務用向け関連商材の売上が好調で、市場の流通も活発に推移しています。物価高もあり量販店等は可能な限り安価な商材を求める傾向にありますが、昨夏の養殖環境悪化による歩留り低下で在池尾数が減少していることや、飼料代、輸送費等のコスト上昇の影響を受けて魚価の高騰が継続していることから、需給バランスの調整が難しい魚種もありました。

養魚用配合飼料は、前期は主要原料となる魚粉の価格高騰による値上げ前の駆け込み需要で売上が増加しましたが、今期は通常販売となっております。また、魚粉の供給環境が改善して相場も下がったことで当社を含めた各配合飼料メーカーは4月に魚類飼料の値下げの価格改定を実施いたしました。

エビ飼料類は、大手販売先でのシェア率アップができたものの、春先の低水温で成長が遅れた販売先が複数あったことや現金取引になった大手販売先で販売量が大幅に減少したことから、前年同期を下回りました。ハマチ飼料類は、販売先の養殖在池尾数が少なかったことなどから自社製品・受託製品ともに販売数量が減少し、前期を下回りました。ヒラメ・マダイ飼料類は、春先の水温が低かったことで摂餌不良や作業の遅れがあったことや、前年は値上げ前の買い込みで売上が増加していたことから、前年同期を下回りました。

鮮魚販売事業は、外食等業務用向け販売は好調であったものの、生産コストの上昇や在池尾数の減少により産地価格が上昇した影響で量販店向け定番商品の販売が減少したことから、前年同期を下回りました。

クルマエビ養殖事業は、販売単価は上昇したものの、前年5月の稚エビの池入れ後と高水温期の斃死が想定よりも多く、在池尾数が減少したことで出荷数量も減少したことから、前年同期を下回りました。

魚類養殖事業は、販売単価が高い沖縄県外向けの出荷が増加し、スギの出荷重量も増加したことから、前年同期を上回りました。

その結果、売上高は16億19百万円（前年同四半期比20.2%減）、セグメント利益は1億3百万円（前年同四半期比44.8%増）となりました。

②食品事業

食品事業におきましては、インバウンド需要や個人消費の増加で量販店や外食産業は活性化しつつある一方で、原料費や資材費、エネルギー関連商材の価格高騰などの影響により、食料品価格の値上がりは続いております。

当社グループにおきましても、主原料の小麦粉の価格が高止まりしており、パーム油など其他原材料の価格も高騰を続けている状況の中で他社との拮抗競争は厳しさを増しており、生産性の改善や販売戦略の見直し、コストを適切に転嫁した製品価格改定に取り組んでまいりました。

即席麺類は、価格改定の影響によるPB商品の販売が減少したことから、前年同期を下回りました。乾麺類（うどん・そうめん等）は、輸出を開始した商品があったものの、PB商品の販売が減少したことから、前年同期を下回りました。皿うどん類は、拮抗キャンペーンの効果とPB商品の増加があったことから、前年同期を上

回りました。ラーメン類は、海外向けP B商品の受注が減少し、前年同期を下回りました。カップ類は、P B商品の販売が好調に推移したことから、前年同期を上回りました。

カレールー・シチュールー類は、新商品の販売や大型企画の採用、メディアで紹介された商品の増販が継続したことや、P Bレトルト商品も販売好調であったことから、前年同期を上回りました。

穀粉類は、海外向け業務用製品が減少したものの、外食産業向けや国内業務用製品が増加し、複数の取引先で企画商品の採用があったことから、前年同期を上回りました。

かき揚げ類は、高齢者施設給食向けや産業給食向けの受注は増加したものの、4月に解禁となった白エビ漁が前期に引き続き極端な不漁である影響から共同購入向けの受注を抑えたことにより、前年同期を下回りました。

その結果、売上高は14億32百万円（前年同四半期比0.5%増）、セグメント損失は13百万円（前年同四半期はセグメント利益50百万円）となりました。

（2）財政状態に関する説明

当第1四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末と比べ3億17百万円減少し、139億8百万円となりました。これは、主として、現金及び預金が1億69百万円減少し、受取手形及び売掛金が1億90百万円増加し、仕掛品が2億11百万円減少したことなどによるものです。

負債は、前連結会計年度末と比べ2億21百万円減少し、88億70百万円となりました。これは、主として買掛金が2億6百万円増加し、短期借入金が2億68百万円減少し、長期借入金が1億73百万円減少したことなどによるものです。

純資産は、前連結会計年度末と比べ96百万円減少し、50億38百万円となりました。これは、利益剰余金が97百万円減少し、その他有価証券評価差額金が1百万円増加したことによるものです。

（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当社グループの売上高は、通常第1四半期連結会計期間より第2四半期連結会計期間及び第3四半期連結会計期間の割合が高くなる季節的特徴があります。2026年3月期の連結業績予想につきましては、2025年5月14日に公表しました「2025年3月期決算短信」における業績予想から変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2025年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,638	1,468
受取手形及び売掛金	1,947	2,137
商品及び製品	822	890
仕掛品	398	186
原材料及び貯蔵品	1,837	1,756
その他	122	128
貸倒引当金	△10	△12
流動資産合計	6,756	6,556
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	2,182	2,053
土地	2,216	2,204
その他（純額）	1,596	1,629
有形固定資産合計	5,995	5,886
無形固定資産		
のれん	28	23
その他	31	38
無形固定資産合計	59	61
投資その他の資産		
投資その他の資産	1,458	1,406
貸倒引当金	△43	△2
投資その他の資産合計	1,414	1,403
固定資産合計	7,470	7,352
資産合計	14,226	13,908

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2025年6月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	579	785
短期借入金	3,796	3,528
未払法人税等	79	225
賞与引当金	184	128
その他	773	757
流動負債合計	5,413	5,425
固定負債		
長期借入金	2,355	2,181
役員退職慰労引当金	54	27
退職給付に係る負債	80	46
その他	1,187	1,189
固定負債合計	3,678	3,445
負債合計	9,091	8,870
純資産の部		
株主資本		
資本金	603	603
資本剰余金	430	430
利益剰余金	4,719	4,622
自己株式	△865	△865
株主資本合計	4,888	4,790
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	246	247
その他の包括利益累計額合計	246	247
純資産合計	5,134	5,038
負債純資産合計	14,226	13,908

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位: 百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年6月30日)
売上高	3,455	3,052
売上原価	2,836	2,471
売上総利益	618	580
販売費及び一般管理費		
運賃諸掛	153	129
貸倒引当金繰入額	2	2
給料及び賞与	126	124
賞与引当金繰入額	30	30
退職給付費用	6	7
役員退職慰労引当金繰入額	2	1
その他	280	282
販売費及び一般管理費合計	601	578
営業利益	16	1
営業外収益		
受取利息	1	1
受取配当金	7	9
為替差益	3	-
デリバティブ評価益	20	-
雑収入	17	21
営業外収益合計	49	31
営業外費用		
支払利息	11	15
為替差損	-	1
デリバティブ評価損	-	8
雑損失	1	4
営業外費用合計	12	29
経常利益	54	3
特別利益		
関係会社株式売却益	-	210
特別利益合計	-	210
税金等調整前四半期純利益	54	213
法人税、住民税及び事業税	17	219
法人税等調整額	△64	32
法人税等合計	△47	251
四半期純利益又は四半期純損失(△)	101	△37
非支配株主に帰属する四半期純利益	-	-
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	101	△37

四半期連結包括利益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年6月30日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	101	△37
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△30	1
その他の包括利益合計	△30	1
四半期包括利益	71	△36
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	71	△36
非支配株主に係る四半期包括利益	-	-

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(連結の範囲の変更に関する注記)

(連結の範囲の重要な変更)

2025年4月22日付で連結子会社であったマリンテック株式会社の株式の一部を譲渡したことにより、同社は連結の範囲から除外されております。

(セグメント情報等の注記)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自 2024年4月1日 至 2024年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位: 百万円)

	報告セグメント		合計	調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	水産事業	食品事業			
売上高					
水産飼料類	1,484	—	1,484	—	1,484
養殖魚類	545	—	545	—	545
乾麺・即席麺類	—	681	681	—	681
カレールー・シチュールー類	—	412	412	—	412
穀粉類	—	177	177	—	177
かき揚げ類	—	153	153	—	153
顧客との契約から生じる収益	2,030	1,424	3,455	—	3,455
外部顧客への売上高	2,030	1,424	3,455	—	3,455
セグメント利益	71	50	121	△67	54

(注) 1 セグメント利益の調整額△67百万円は、各報告セグメントに帰属しない全社費用等であり、提出会社の管理部門に係る販売費及び一般管理費72百万円、営業外収益11百万円、営業外費用6百万円であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第1四半期連結累計期間(自 2025年4月1日 至 2025年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位: 百万円)

	報告セグメント		合計	調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	水産事業	食品事業			
売上高					
水産飼料類	1,276	—	1,276	—	1,276
養殖魚類	343	—	343	—	343
乾麺・即席麺類	—	616	616	—	616
カレールー・シチュールー類	—	507	507	—	507
穀粉類	—	183	183	—	183
かき揚げ類	—	124	124	—	124
顧客との契約から生じる収益	1,619	1,432	3,052	—	3,052
外部顧客への売上高	1,619	1,432	3,052	—	3,052
セグメント利益又は損失(△)	103	△13	90	△86	3

- (注) 1 セグメント利益又は損失(△)の調整額△86百万円は、各報告セグメントに帰属しない全社費用等であり、提出会社の管理部門に係る販売費及び一般管理費88百万円、営業外収益13百万円、営業外費用11百万円であります。
- 2 セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年6月30日)
減価償却費	106百万円	102百万円
のれんの償却額	4	4